

■原作の簡単な紹介

遊戯王デュエルモンスターズ GX(以下遊戯王 GX と記載)というアニメ作品です。遊戯王というTCGのアニメシリーズの2作目になります。

武藤遊戯が主人公の初代アニメ(DM とも呼ばれる)から、世界観は地続きなものの主人公や舞台設定を一新し、原作のないアニメオリジナル作品として展開されます。

■CP の紹介

CP 名は亮十(丸藤亮×遊城十代)です。

二人の関係性は一言で言えば先輩と後輩で、主人公である十代が入学したデュエルアカデミアという学校のトップが亮になります。

遊戯王 GX という作品は、全 180 話、放送期間にして 3 年半というかなりボリュームのあるアニメ作品なのですが、その特徴の一つとして、作中で流れる時間がリアルタイムと同期しているという部分があります。

主人公の十代は、最初は 1 年生として学校(ちなみに高等部です)に入学しますが、1 年経てば進級して 2 年生となり、最後は 3 年生になった彼が学校を卒業するまでが描かれ、彼だけでなく彼の周囲を取り巻く人々も様々な変化や成長を遂げています。

学校トップとして登場した亮も、例外ではありません。

彼は 1 期(最初の 1 年の 4 クールのこと)の最後で華々しく卒業していくのですが、その後も学校の OB という立場で折に触れて十代と関わります。

この CP の最大の推しポイントは「どれだけ考え方や生き方が変わっても、この二人は先輩と後輩」というところに尽きます。

この二人は作中でも言及がありますが、とにかく立場やプレースタイルが正反対です。

ですが、性格や価値観は意外と似通った部分があり、そのためか十代が後に経験する挫折を先に亮が経験する立場になっています。

強者であるが故の孤独を抱え、自らの限界に気付いているからこそ、亮は未来ある十代の成長を心底から願っていました。

そして、亮が経験した孤独をいつしか十代も抱えるようになり、十代が心身の限界を迎えて深く傷つき立ち止まってしまった時に、それを先に挫折して乗り越えた亮が、自身の辿り着いた答えを見せることで、十代に先に進むように道を示します。

お互いに相手のことを特別視しており、同じ境遇に身を置くからこそ、根柢の深いところで考えが通じ合っているように見え、そこがひたすらに推せます。

■受けキャラ(遊城十代)について

上述していますが、この作品の主人公です。勉強は苦手だけれど、デュエルの腕は本物で、明るく心優しくカラッとした性格の少年です。

「友情！勝利！」といった熱血系というより、サバサバした性格。困っている人を放っておけない一方で、他人の人間関係や内心については必要以上に踏み込まない一歩引いた立ち位置にすることが多いです。

学校の皆は彼にとって友だちでありライバルで、全員が大切な人です。

だからこそ、友人たちの命が脅かされるような事態には全力で立ち向かい、守ろうとする。その責任感が暴走した結果、彼は子どものままではいられなくなり、大人へと成長することになります。

■攻めキャラ(丸藤亮)について

上述した通り、十代が1年生の時の3年生で、学校トップです。

十代はほとんど負けない主人公なのですが、その彼が作中で最初に負けた相手が亮です。その後も、1期のラストの時点で肩を並べるレベルに十代も成長していますが、追い越すまでは至っていません。

1期の十代にとって、常に高みにいる存在であり、越えるべき壁です。

常に十代の一歩先を行き、道を示してくれる人です。

学校トップですが、性格に驕りや嫌味はなく、真面目で思慮深く、距離を置かれてしまっていますが弟想い(十代と同級生の弟がおり、その弟は十代のことを兄貴分として慕っているというややこしい関係)な人です。

寮のクラス格差による明確な差別意識が根付く生徒たちの中では珍しく、最下層の寮所属である十代のことを初めて戦って以来ずっと気にかけており、学校対抗デュエルの代表に推薦したり、自身の卒業模範デュエル(卒業生トップが好きな相手を指名できる)で対戦相手として十代を選び、前代未聞だと周囲を驚かせています。

在学中は大きな挫折もなく卒業した彼は、卒業後に大きな転機を迎えることになります。学校を卒業した亮は十代より先に大人になり、その過程で様々な経験をしたことで十代にはない俯瞰した視点を持ち合わせるようになりました。

その結果、十代が「子どもであること」に対して誰よりも先に懸念を抱き、彼が「大人になる」ために自身の背中を見せることになります。